

公益社団法人 日本青年会議所 四国地区 徳島ブロック協議会	
徳島ブロック会長 陸山 勝利	
現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県の人口は、75万5千人(2016年10月1日 国勢調査)ですが、2018年の推計人口は73万7千人と減少傾向にあります。2045年の推計による生産年齢人口(15歳～64歳)は、16万7千人減の26万1千人となり人口減がもたらす経済への打撃は避けることができません。 ・台風の常襲地帯であり風水害が多数発生し、崩壊、土石流、高潮などの災害や1946年の南海地震のようなマグニチュード8クラスの巨大地震が100年の間隔で発生しています。今後30年以内に60%～70%、50年以内に90%程度以上の確率で発生するとされています。 ・観光では、阿波踊りが有名ですが、近年集客力が伸び悩んでいます。宿泊施設、2次交通、道路網の整備が不十分であり、移動手段に課題があります。
活動概要	<p>■地域社会でSDGsを達成していくための事業の企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性と災害リスクを知り、防災、減災につながる事業を企画し、今後発生する可能性が高い南海トラフ地震に備える事業を実施します。 ・多様な産業や行政が連携し、経済の好循環を作り上げる事業を企画し、自然、歴史、立地という地域資源を活用しながら持続可能なまちで徳島をブランド化し、他地域との差別化と交流人口の増加を図る事業を実施します。 <p>■ブロックと連携した会員拡大支援の企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LOMの会員拡大を支援し組織強化を支援するため県内7LOMの現状を調査、課題と成功事例の共有、リーダー育成セミナー、異業種交流会を実施し、2019年12月までに80人の会員拡大を実施します。
S D G s	8・9・11・13・17
K P I	<p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を知り、防災・減災につなげる事業の企画・実施を年2回行い、参加者数200人を目指します。 ・地域資源の有効活用による新たな経済ビジョンの構築の企画・実施を他団体組織と連携して行い、参加者数200人を目指します。 <p>(会員拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島ブロック協議会、会員総数320名(2019年期首比20%増)を目指します。
IMPACT (影 響 力)	<p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の専門家による講演や地域の特性を反映したハザードマップの利用を行い、地域住民が災害をイメージすることで防災、減災につながります。 ・地域資源を有効に活用することを行い、他地域との差別化を図ることができます。 <p>(会員拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数の減少が進むなか、会員拡大事業や異業種交流会を行うことで、社会のあらゆる分野で活躍し、地域を牽引する人材を育成できる組織はJCIしかない」と市民から共感や信頼を獲得し存在価値を高めます。
MOTIVATE (意 欲)	<p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる災害をイメージできる機会の提供を行い、自助、共助の大切さや防災、減災の意識を高めます。 ・地域住民や地域の各種団体と地域資源の活用方法の調査研究を行い、地域経済の発展に寄与していく意識を高めます。 <p>(会員拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー自ら会員拡大を行うことで地域を牽引する人材が増えることを実感するとともに、対外においては、JCIに入会すれば新しい時代に必要な能力を身につけることができる場にしていきます。
INVEST (投 資)	<p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各LOMIに防災に関する知識を持つ人材を育成する事業を行い、地域の防災リーダーとしての役割を果たします。 ・自然、歴史、立地などの地域資源に積極的に投資を行い、魅力的な場所を創造します。 <p>(会員拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益事業を通して地域に投資をし、地域発展に寄与することでJCの信頼を獲得します。また、各LOMの今後中核を担うメンバーに対して会員拡大の目的や使命を伝える人材になるため、研修会や講演会などを実施し人材に投資をします。
COLLABORATE (協 力)	<p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会との協力関係を強化し、有事の際の災害復旧支援や物資の提供など迅速に対応できるようにします。 ・商工会、行政との協力を強め、新しい地域資源を創造します。 <p>(会員拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックとLOMの連携を密に行うとともに、LOM同士の連携を取れるようにブロックが支援することや、毎月開催される会議において拡大推進の進捗を確認し、目標を立てブロック全体で行なっていきます。
CONNECT (つ な が り)	<p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会、行政、消防、自衛隊、警察など各種組織とつながりを強め、災害時の適材適所を行えるようにします。 ・行政、商工会、商工会議所などつながりを強め、地域資源を生み出す力を養うとともに、新たなビジネスチャンスを創出します。 <p>(会員拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、商工会議所、商工会など各種団体や各種協会団体と強固なつながりを持つために積極的な声掛け、JCの会議への参加を促し、最終的にはパートナーシップを結びます。
政 策 手 法 (ゴ ー ル デ ン サ ー ク ル)	<p>(SDGs)</p> <p>Why(理由): 南海トラフ地震が今後50年のうち高確率で発生する恐れや異常気象による風水害に対する防災意識の向上を図る必要があります。</p> <p>How(手法): SDGsを活用し、防災の専門家による講演、ハザードマップの利用、各種組織との連携を強めます。</p> <p>What(行動): 災害時を想定したイメージをもつことで有事の際の迅速な対応につなげます。</p> <p>Why(理由): 人口減による地域経済の下振れリスクと既存観光の低迷が続く徳島経済を活性化させなければなりません。</p> <p>How(手法): 経済界や行政など各種団体組織とSDGsを活用し地域資源の有効活用の調査研究、意見交換を行います。</p> <p>What(行動): 多様な産業や行政が連携することで新たな地域資源を創り出します。</p> <p>(会員拡大)</p> <p>Why(理由): 会員数の減少が進むなか、同じ志を持つ仲間を増やし、地域を牽引する人材を育成し、輩出していかねばなりません。</p> <p>How(手法): ブロック全体でリストアップ、情報交換、アカデミー事業、JCIプログラムを活用します。</p> <p>What(行動): 講演会や研修会を通して入会候補者に勧誘、メンバーにセミナーの開催、資質向上を行います。</p>
パ ー ト ナ ー	<p>(徳島県庁:政策協力)、(社会福祉協議会:政策協力)、(消防:災害協定)、(警察:災害協定)</p> <p>(自衛隊:災害協定)</p> <p>(商工会:政策協力)、(商工会議所:政策協力)、(徳島県庁:入会支援)、(市町村役場:入会支援)</p>